

むつ市は3日、八戸学院大学と防災士の養成および育成に関する協定を締結した。人材紹介や研修プログラムを通じ、発災時における地域の対応力向上を目指す。同大は協定締結を受け11、12日に市内で初の防災士養成講座を開く。

防災士はNPO法人・日本防災士機構(東京)が認定する民間資格。地域の防災意識や防災力向上に努め、災害発生時は住民の避難誘導や救助に当たる。

同大は2018年から講座を開き、地域住民や学生の資格取得に貢献してきた。25年度、むつ下北キャンパスを開設したことで同市との関係が深まった。自治体と防災士に関する協定を結ぶのは初めて。

防災士養成で協定 市と八学大

むつ



防災士の養成および育成に関する協定を締結した
小林学長と山本市長

むつ下北では県立学校5校の生徒でつくる「下北BOUSAインターネットワーク」が学校の枠を超えて防災啓発活動に取り組んで、防災士資格の取得に挑んできた。講座が2日間にわたるため、より負担の軽い地元での開催を求める声が出ていたという。

市役所で開かれた締結式で小

林眞学長は「防災の技能と知識を持った人が増えていくことは、地域と国土全体の防災力を上げていくことになる」、山本知也市長は「青森県東方地震で大きな被害を受け、先般も地震が発生し防災、減災に関心が高まっている中で連携を結べることは大事」とそれぞれ意義を語った。
(本間善幸)